

○神戸大教育 稲垣和子 名古屋女大 酒井清子
 名古屋市立女短大 佐野恂子 信州大教育 関川信子
 東京学芸大教育 中橋美智子 帝塚山学院短大 華岡政子
 和歌山大教育 福本富美子 福井大教育 松尾みどり
 元福島大教育 高橋キヨ子

目的 衣服の着衣量は最近オ1に軽装化の傾向がみられるが、オ1報の衣服重量の考察に引き続き、本報においては全じく衣服枚数について検索を行ない、成長期における小・中学生の着衣についてその状態を考究することは、衣服衛生学的立場から意義あるものと考之検討した。

方法 オ1報に準じ、タナックカードを利用して調査結果を集計整理した。全身着衣枚数、上半身衣服および下半身衣服のそれぞれの枚数、それらの服種の組み合わせ、上衣と下衣との着衣関係などを調べた。

結果 全国小・中学生の全身着衣枚数の最出現状況と出現率は、春季は小・中学生とも5枚着用が60±5%の範囲にあり、夏季は小学生5・6年では3枚着用が51±3%、中学1・2年は4枚着用が64±4%であった。男女の比較では、着衣枚数の傾向は女子は男子に比しそれぞれ1枚多く着用し、それらの着用率は男子のそれよりやや小であった。尚夏季の上半身着用衣服は、男子は外衣と內衣(肌着)兼用の着衣形態が小学生5・6年では42±4%、中学生1・2年では75±4%であった。その他の季節は、肌着シャツとカッターシャツの組み合わせに、セーター、学生服などの着用が30%~53%の範囲で認められた。女子は男子に比べ、衣服の組み合わせは多種多様であり複雑な傾向が判明した。